

2024年度 研究活動報告

研究会

「島根大学教育学部小学四年課程初の女子卒業生のライフヒストリー

～樺太出身の小学校教師・島田徳子氏の場合～」

2024年5月31日、甲南女子大学教授の島田博司先生をお迎えして、研究会をオンラインで開催いたしました。新制大学に進学する女子がまだ少ないなか、生まれ育った樺太からの引き上げ後に、島根大学の教育学部小学四年課程を女性ではじめて卒業した島田徳子氏のライフヒストリーが紹介されました。小学校教師として、家庭人としての生き方に加え、退職後のくらしまでがインタビュー調査によって明らかになっています。学内の先生方に加えて、遠方他大学からも参加いただき、踏み込んだ質問も多く行われ、闊達な質疑応答が行われました。

研究会

「英国における離婚、家族、マイノリティコミュニティとドイツの難民女性に対するソーシャルワーク」

2024年7月5日、フランクフルト応用科学大学のチャイタリ・ダス先生をお招きしてハイブリッドでの研究会（逐次通訳）を開催いたしました。「英国における離婚、家族、マイノリティコミュニティとドイツの難民女性に対するソーシャルワーク」と題して、様々なマイノリティに関する先生の研究の中から、二つのプロジェクトが紹介されました。ひとつは、離婚を経験したインド系英国人の子供たちに着目し、彼女／彼らが成人した後にインタビュー調査を行ったものです。もうひとつは、フランクフルトとその周辺地域における難民女性に着目し、彼女たちへのサービス提供を模索するために行われた聞き取り調査に基づいた報告です。これらの研究では、マイノリティ化された女性が直面する問題のいくつかに光を当てるための、精選された見識が引き出されました。

研究会

「現代社会における言語研究の役割」

2024年12月19日、シドニー大学の米澤陽子先生と日本女子大学研究員の宮崎あゆみ先生をお招きして、ハイブリッドでの研究会を社会福祉学専攻と共催で開催いたしました。お二人のキャリア形成の過程における言語研究との出会いから、言語研究が明らかにする新しい視座など、現代社会における言語研究の重要性やその展望について、お話いただきました。具体的な調査内容として、米澤先生は「人称詞・言語と文化社会との関係性」など、宮崎先生は「ジェンダー—人称の解釈・交渉のプロセス」など、お二人の研究が「人称」に着目しているなどの共通点もあり、理解を深める良い機会となりました。

研究会

「韓国における高齢者雇用政策の動向」

2025年2月19日、国立江原大学校比較法学研究所の朴修慶先生をお招きして、オンラインでの研究会を多世代交流研究会との共催で行いました。昨年の暮れに超高齢社会に突入した韓国社会における高齢者雇用政策及び法制度が取り上げられました。韓国における高齢化と高齢者雇用の現況を概観し、高齢者雇用や定年・再雇用などを定めている『雇用上年齢差別禁止及び高齢者雇用促進に関する法律』の内容が分析されました。韓国の経済社会労働委員会（Economic, Social and Labor Council）で議論されている新しい高齢者雇用政策の動向についても紹介されました。日本も超高齢社会であることから多くの関心を集め、たくさんの方にご参加いただき、発表後には多くの質疑応答が行われ、有意義な意見交換をすることができました。

ワークショップ

「夏のキャリア・スタートアップ・セミナー」

2024年9月19日、清泉女子大学教授の安斎徹教授をお迎えして、『キャリア・スタートアップ・セミナー ～アニメ映画とジェンダー論から、これからのキャリアを考えよう！～』を日本女子大学の学生向けに開催いたしました。身近なアニメ映画や参加型のワークショップを通じて、これからのキャリア（生き方・働き方）を考えるきっかけを提供し、今後のキャリア形成に向けて自ら考える良い機会となりました。ワークショップでは、初対面の学生たちが助け合いながらプロジェクトを遂行する様子もみられ、自ら行動する意欲を醸成するとともに、目標に向かって協力することの重要性を体験する貴重な経験となり、大変好評をいただきました。

ワークショップ

「社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ」

現代女性キャリア研究所では、2012年から学内の学生・教職員を対象として、『社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ』を開催しています。今年度の講義では、SPSSの基本操作からデータ加工などの基礎知識を扱う基礎編、統計分析の理解からクロス集計、回帰分析等を扱う応用編が各2日ずつ開催され、計4日にわたり実践的学習が行われました。様々な学部・専攻より幅広い方々にご参加いただき、本年度も大変好評なワークショップとなりました。

オープンキャンパス

「研究所の展示紹介」

6月16日、8月3日、8月4日のオープンキャンパスに現代女性キャリア研究所のブースを開設し、研究所の活動をパネルや動画などを通してご覧いただきました。なかには、研究所発行の『現代女性とキャリア』やニューズレター、リーフレットなどを持ち帰られる親子の姿もありました。オープンキャンパスへの出展は、多くの方々に研究所を知っていただく機会となりました。

2024 年度 彙報

◆研究事業

・独自研究事業の進展

- (1) 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画、女性活躍に関する企業の情報の開示が求められるなかで、昨年度に実施した、企業における女性の働き方や活躍推進に関する事例調査を事例集としてまとめた。
- (2) 「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集を進め、書誌データベースの拡充を行った。

・2024 年度における傘下研究事業は以下のものである。

- (1) WHO グローバル社会政策の自治体における受容と実施プロセスに関する国際比較（増田 幸弘）
- (2) WHO 国際ネットワーク参加自治体間における高齢者福祉政策の相互学習の比較研究（増田 幸弘）
- (3) 現代日本における貧困の検証：生活保護制度再考への示唆（岩永 理恵）
- (4) 物語絵画にみる女性表象の包括的研究—作品享受の主体としての女性像とジェンダー（水野 僚子）
- (5) 民主主義的ケアの可能性：人的資本化される女性政策への対抗軸の構想（伊吹 美貴子）
- (6) 離婚家庭の子の「自分も離婚するのでは？」という不安感の解明と心理支援モデルの構築（小川 洋子）
- (7) 家族・家計経済研究センター（永井 暁子）

◆教育支援

- ・平塚らいてう賞の選定支援：平塚らいてう賞の事務局業務として応募書類などの確認及び選考委員会の開催などを担当した。
- ・夏のキャリア・スタートアップ・セミナー：学生向けセミナーを9月に開催した。
- ・資料室における図書・雑誌資料等の閲覧提供を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会、ワークショップなどを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

- (1) シンポジウム

「非婚・少子社会への視座—若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状—」

【講演】

「日韓における少子化の現状と対策の比較：なぜ日本の出生率は韓国を上回って

いるのか」

金 明中（ニッセイ基礎研究所上席研究員）

「養育における家庭・地域の位置付けと児童福祉施策への影響～高度経済成長期以降の福祉政策の動向を踏まえて～」

林 浩康（日本女子大学人間社会学部教授）

「若者の結婚観・恋愛観の変容：「愛情」と「合理性」との狭間で」

千田 有紀（武蔵大学社会学部教授）

【全体討論】

2024年12月14日（土）10:30～13:05 新泉山館 大会議室 オンライン併用

(2) 研究会

「島根大学教育学部小学四年課程初の女子卒業生のライフヒストリー～樺太出身の小学校教師・島田徳子氏の場合～」

講師：島田 博司（甲南女子大学教授）

2024年5月31日（金）15:15～16:45 オンライン

「英国における離婚、家族、マイノリティコミュニティとドイツの難民女性に対するソーシャルワーク」

講師：チャイタリ・ダス（フランクフルト応用科学大学教授）

2024年7月5日（金）15:15～16:45 百年館504会議室、オンライン併用

「現代社会における言語研究の役割」（社会福祉学専攻と共催）

講師：米澤 陽子（シドニー大学専任講師）・宮崎 あゆみ（日本女子大学学術研究員）

2024年12月19日（木）18:00～19:30 百二十年館12015教室、オンライン併用

「韓国における高齢者雇用政策の動向」（多世代交流研究会主催・現代女性キャリア研究所共催）

講師：朴 修慶（国立江原大学校比較法学研究所研究教授）

2025年2月19日（水）18:00～19:30 オンライン

(3) ワークショップ

夏のキャリア・スタートアップ・セミナー（共催：キャリア支援課）

講師：安齋 徹（清泉女子大学教授）

2024年9月19日（木）10:00～16:50 百二十年館ラーニングコモンズ・かえで

SPSS ワークショップ

講師：金 明中（ニッセイ基礎研究所上席研究員）

2025年3月3日（月）、3月5日（水）～7日（金）13:00～16:00

百年館低層棟4階コンピューター演習室1

(4) オープンキャンパス展示

オープンキャンパスに RIWAC のブースを開設

2024 年 6 月 16 日 (日) 10:00 ~ 15:00 百二十年館 12104 教室

2024 年 8 月 3 日 (土)、4 日 (日) 10:00 ~ 15:00 百二十年館 12002 教室

(5) 共催イベント

ジェンダー教育シンポジウム「ジェンダー教育の現在 (いま) ~これからの男性の生き方~」

講師：おおた としまさ (教育ジャーナリスト)、

櫻井 由美 (成城中学スクールカウンセラー)、永井 暁子

2024 年 11 月 9 日 (土) 14:00 ~ 16:00 成城学校小講堂

◆研究所発行物

- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第 16 号
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.16
- ・『2023 年度企業調査事例集』
- ・Riwac Research Series 『島根大学教育学部小学四年課程初の女子卒業生のライフヒストリー~樺太出身の小学校教師・島田徳子氏の場合~』(島田博司著)

『現代女性とキャリア』編集規定

(2023.8.7 委員会決定)

1. 本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年1回発行とする。
2. 本誌の編集は編集委員会ならびに編集委員会事務局によって行う。
3. 本誌は原則として、女性とキャリアに関する研究発表の場とする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。本誌では、投稿原稿（論文および研究ノート）、編集委員会による依頼原稿（特集、書評、文献紹介、寄稿論文、その他）等を掲載するものとする。
4. 原稿の作成は、別途定める執筆要項に従うものとする。また投稿は、別途定める投稿規程にもとづいて行うものとする。
5. 投稿原稿の採否は、所定の査読手順に従い、編集委員会において決定する。
6. 編集委員会は、依頼原稿の執筆者を決定して依頼を行い、執筆された原稿の掲載可否を決定する。
7. 書評および文献紹介の対象となりうる図書は、編集委員会が女性とキャリアに関する研究に対して有意義と認めるものとする。
8. 編集委員会は、掲載予定の原稿について、本誌編集方針に則って、漢字・平仮名表記の別など、多少の原稿整理をすることができる。
9. 論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
10. 本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報リポジトリ上で電子化・公開される。
11. 本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

『現代女性とキャリア』投稿規定

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
2. 投稿資格は問わない。
3. 同一号に複数の論文等（共著を含む）を投稿することはできない。
4. 投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
5. 投稿にあたっては、別途定める「執筆要項」に従って原稿を作成し、体裁を整え、編集委員会事務局（riwac-ed ☆ fc.jwu.ac.jp ☆→@）にメール添付により2月末日までに

送付する。期日までに送付されなかった原稿、執筆要項に定められた字数等の制限を超えた原稿は一切受理しない。編集委員会事務局は原稿受付後、1週間以内に受付した旨を連絡するので、連絡が来ない場合は、投稿者は自身の責任において編集委員会事務局に確認する。

6. 投稿の際には、必要事項を記入した「投稿申込書」を必ず添付する。

<投稿申込書記載項目>

① 氏名（ふりがな）、ローマ字表記、② 住所・電話番号、③ 所属・職名、④ 論文のタイトル、⑤ 投稿の種別（論文／研究ノート）、⑥ 電子メールアドレス

7. 掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付し、指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。

8. 投稿論文の査読は、著者名等を匿名に行っている。文献等の表記の際には、匿名にすべき箇所が最小限ですむよう、本人の著であっても、「筆者」「拙著」等とせず、著者名で表記する。

9. 本規程の変更は、編集委員会の議を経ることを要する。

『現代女性とキャリア』執筆要項

(2011.10.25 委員会決定)

(2017.6.30 改訂)

(2023.8.7 改訂)

1. 執筆の形式

(1) 原稿は、A4判縦置き・横書き、40字×40行で作成し、フォントは10.5MS明朝（章・節・項はゴシック）、MS Word形式およびPDF形式のファイル両方をメール添付にて提出する。（縦書きを希望する場合は要相談）。

(2) 論文及び研究ノートは、1) タイトル、2) 英文タイトル、3) 氏名、下にローマ字表記、4) 英文要旨（200語程度）、5) 英語キーワード3つ（日本語訳付）、6) 本文、図表等、7) 文末注、8) 文献、9) 所属、の順に構成し、総ページ数を論文は12ページ以内、研究ノートは10ページ以内とする。

2. 本文

(1) 本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

1. } 数字：全角
 (1) } 1)
 1)

(2) 年号は西暦表記を基本とする。

ただし、必要に応じて「昭和50年代」などの和暦表記を用いる。

(3) アラビア数字やアルファベットは半角にする。

(4) () 「」 『』 等のかっこは全角にする。

(5) 句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「,」「.」を用いる）。

3. 図表等

(1) 図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

(2) 他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

(3) 図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例 図1、表1

図-1、表-1

4. 注記、文献

(1) 注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

(2) 引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

- ① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。
- ② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、(著者名(姓) 西暦発行年「:」 ページ)を記して、文献リストの該当文献の参照を指示する形式をとる。
- ③ 文献記載および配列の方法(形式)は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍: 著者名, 出版年, 『タイトル-サブタイトル』 出版社名.

・雑誌論文: 著者名, 出版年, 「論文名」『掲載誌名』 巻(号), 掲載ページ.

・編書論文: 論文著者名, 出版年, 「論文名」 編者名『編書タイトル-サブタイトル』 出版社名, 掲載ページ.

・翻訳書: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, タイトル: サブタイトル, 出版社名. (= 出版年, 訳者名『訳書タイトル-サブタイトル』 出版社名)

・欧文書籍: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, タイトル: サブタイトル, 出版社.

・欧文雑誌論文: 著者ファミリーネーム, ファーストネーム他, 出版年, “論文タイトル: サブタイトル”, 掲載誌タイトル: サブタイトル, 巻(号), 掲載ページ.

④ 欧文書籍ならびに欧文雑誌論文の場合は、書名(タイトル: サブタイトル)・雑誌名(掲載誌タイトル: サブタイトル)をイタリック体にする。

⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を2009a、2009bのように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所 現代女性とキャリア 第17号

2025年9月30日発行

編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長 永井 暁子

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel : 03-5981-3380 Fax : 03-5981-3381

発行 日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷 膳栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12
